

No. B-6 年鑑の使い方

1. 年鑑とは

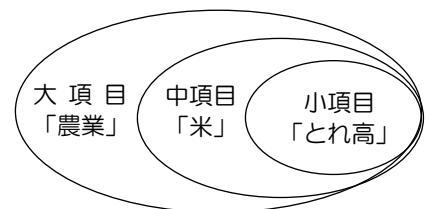
- 前の年の1年間の主な出来事やいろいろな統計がまとめられており、毎年出版される。
- 年鑑には、『ニュース年鑑』『スポーツ年鑑』(ポプラ社)など特定分野のものと、『朝日ジュニア年鑑』(朝日新聞出版)、『世界年鑑』(共同通信社)、『読売年鑑』(読売新聞社)などの総合的なものがある。
- 動物の名前を調べるには動物図鑑、言葉の意味を調べるには国語辞典、事柄を調べるには百科事典、人口や米のとれ高など統計的なことを知りたいときには年鑑が便利であるなど、すでに学習した参考図書の用途と比較しながら年鑑の用途を伝える。

2. 指導のポイント (『朝日ジュニア年鑑』を使用する)

- 統計データの扱いは、小学校4年生で『日本のすがた 日本国勢図会ジュニア版』(矢野恒太記念会)を用いて学ぶ。年鑑は統計だけではなく、さまざまな分野の資料や前年の出来事を網羅しており、小学校5年の国語科で利用法を学ぶことが多い。
- 年鑑は0類の棚に並んでいる。最新版には前年のさまざまなデータが掲載されているので、調べ学習に便利である。
- 『朝日ジュニア年鑑』は、「学習編」(前年の主な出来事や特集記事が掲載されている)と「統計編」(日本や世界のさまざまな事柄が表やグラフで示されている)に分けられている。
- 探す時は、図鑑と同様に、「目次」や「索引」を使う。目次は 大項目>中項目>小項目 の順で見っていく。目次で探せないときは、索引を使う。索引は五十音順に見出しが並べられている。
- グラフや図表を見るときには、単位、調査年、調査機関に注意する。
 - ・数字の単位は何か。「**人」と「**千人」などを区別する。(単位)
 - ・いつの統計か。年度は4月から次の年の3月まで。年次は1月から12月まで。(調査年)
 - ・調査したのはどこか。(調査機関)
- 毎年出版されるので、過去の情報が必要なときは、その年度に適した出版年のものを選んで利用する。

3. 指導の実際

- 年鑑への興味・関心を高めるために、何が調べられるか、意外な例を出すのもよい。
- 国語科の単元として利用法の指導をするとよい。
- 1人1冊か2人で1冊使えるように用意したい。(使い方を指導するには、過去の年度の年鑑でも使える。年鑑は捨てないこと。)
- 目次の大項目、中項目、小項目について説明し、語を絞り込んでいくことを教える。



例) 農業 > 米 > とれ高

- 索引の使い方は百科事典等で既習であるので、学んだことを思い出させながら確認する。
- 目次でも索引でも、調べる時には自分でキーワードをいくつか考えさせる。
- 練習問題を行いながら、目次からでも索引からでも、楽しんで引き方に慣れるようにする。
- グラフや表でまとめられているものは、年鑑のほかに『統計資料集』や『白書』があることも伝える。

≪クイズ例≫
<https://www.j-sla.or.jp/sl-support/nenkanq.pdf>

*年鑑は、新年度のものを購入したからといって古いものを廃棄してはならない。経年で調べることや、古い情報が必要なことがある。書架に並べておこななくてもよいが、必要に応じて取り出せるように整理しておく。